

広報

ただみ

4

2019 月号

No. 587

平成31年4月10日

最高の仲間 「ありがとう」。

今月の表紙

今月の表紙は、3月13日に執り行われた「只見中学校卒業式」で、学び舎との別れを惜しみ仲間と抱き合う卒業生です。

在校生や先生方に見送られ昇降口を出たところでは、仲間と抱き合い「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えあう卒業生の姿が見られました。仲間と築き上げた3年間の思い出を胸に、卒業生30名が学び舎を巣立ちました。

(関連記事：P.12～13)

《特集》

- 新しくなった只見町公共交通…… 2～7
- 平成31年度当初予算…… 8～9
- 雪まつり「フォトコン」・「ミニ雪像コンテスト」
…… 10～11
- 町内各地で卒業式・満了式…… 12～13
- 只見町プロジェクト&協力隊成果発表
…… 14～15
- 《News&flash》…… 16～17
- 《町の話》…… 18～21



4月から予約不要の「定期路線ワゴン（只見・田島間）」運行始まる

新しくなった町の公共交通サービス



▲多くの地域住民が見守る中、第1便が只見駅を出発した定期路線ワゴン「自然首都・只見号」

町では、これまで町内で運行している公共交通の一部を見直し、4月1日から新たに「定期路線ワゴン 自然首都・只見号」の運行を開始し、デマンド交通「只見雪んこタクシー」と「福祉乗合いいきいきバス」の利用料金改定を実施しました。

本号では、「定期路線ワゴン」の内容と「只見雪んこタクシー」「福祉乗合いいきいきバス」についてご紹介します。

町の公共交通に関する町民アンケート調査

本町の公共交通は社会を取り巻く環境の変化により、平成18年10月から只見町商工会が事業主体のデマンド交通「只見雪んこタクシー」の運行を開始。その後、平成19年4月に町外への移動手段であ

った会津バスの「只見く山口車庫線」が廃止になったことによる「只見雪んこタクシー」の運行形態の見直しや、平成23年12月からは障がい者も利用できる「福祉乗合いいきいきバス」を導入。平成27年4月には、町の観光二次交通対策として町観光まちづくり協会が事業主体となり、只見駅と



▲テープカットで祝った出席者の皆さん



▲第1便に乗車する利用者



▲駅前のバス停で待つ利用者



【表1】町の地域公共交通の課題

- ①只見駅～会津田島駅間「観光ツアーバス」の運行内容などの課題
- ②土日祝日の公共交通サービスの導入
- ③雪んこタクシー（福祉乗合いきいきバス）の利用料金の課題
- ④町内全路線への路線バス運行
- ⑤スクールバスの一般住民混乗化などの有効利用
- ⑥夜間の公共交通サービスの運行
- ⑦国道289号八十里越開通後の新潟県三条市までの公共交通
☞優先順位を付けて解決を目指す！

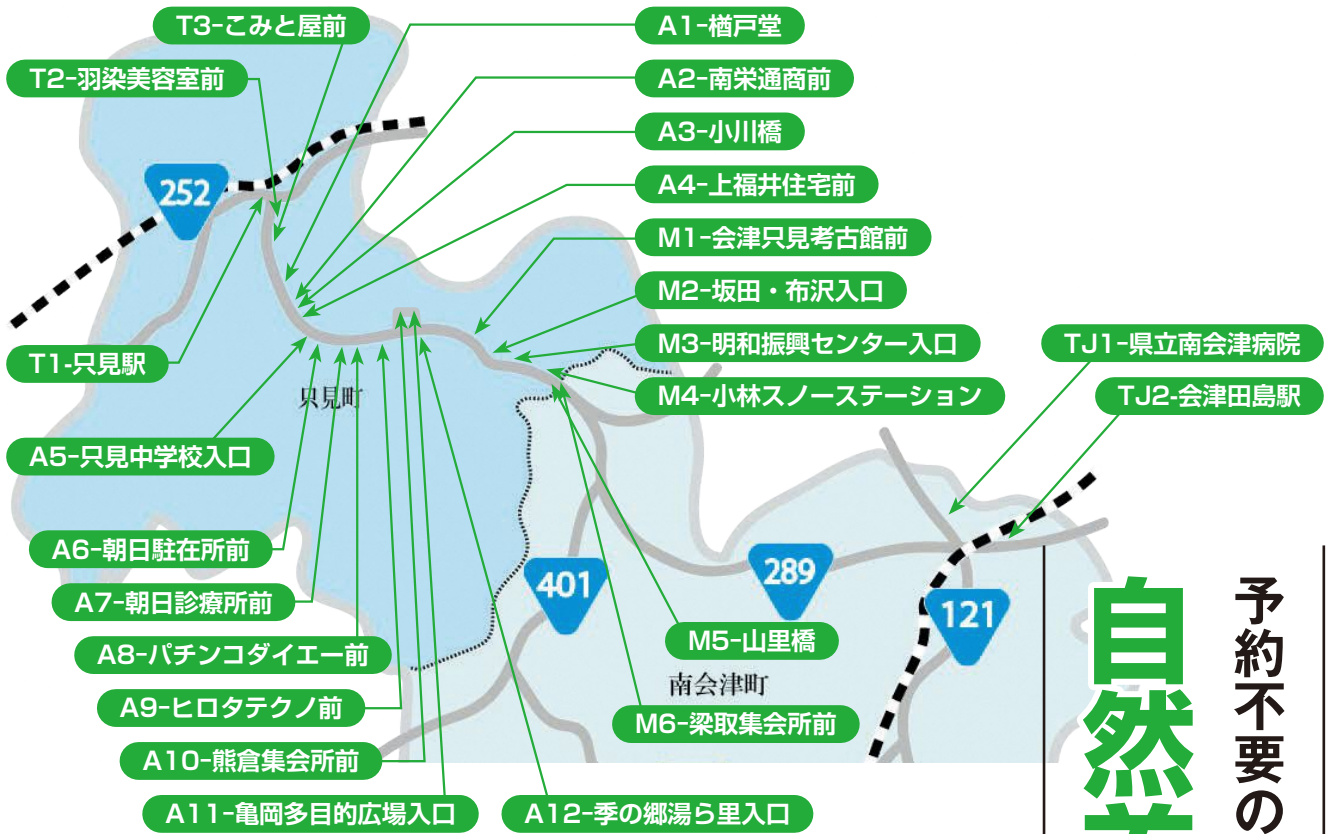
会津田島駅間を結ぶ予約制「観光ツアーバス」の運行を開始するなど、地域の実情に即した公共交通サービスを提供してきました。しかし、近年では予約不要の定期路線運行を求める住民の声などもあり、町では昨年8月に「公共交通に関するアンケート調査」を実施。町民千人を対象に現在運行しているサービスや定期運行路線バスなどについて意見を求めました。結果、「予約不要で利用したい」「車内精算できない観光ツアーバスは不便」「週末に通院や外出したいが公共交通が充実していない」「利用料金が高い」などの意見があげられ、表1のとおり課題を整理しました。町では、課題解決を図るため優先順位を付け、主に①～③までの課題について検討し、「定期路線ワゴン 自然首都・只見号（以下、路線ワゴン）」の導入と「只見雪んこタクシー」「福祉乗合いきいきバス」の利用料金改定について只見町地域公共交通会議で協議され、承認されました。

これにより、4月から只見駅と会津田島駅を結ぶ「路線ワゴン」の運行が始まり、あわせて「只見雪んこタクシー」「福祉乗合いきいきバス」の利用料金の改定が行われました（路線ワゴン導入により観光ツアーバスは運休）。

**定期路線ワゴン
自然首都・只見号の出發式**

4月1日、JR只見駅前駐車場で「路線ワゴン」の出發式が行われ、関係者約20名が出席しました。この「路線ワゴン」は、定時定期路線運行の本格実施に向けた実証事業として3年間運行するもので、ルートや時間、利用客数などを検証していきます。

出發式では、菅家町長が「今年が町制施行60周年の年。町民の足として定着してほしい」とあいさつし、町観光まちづくり協会の目黒長一郎会長が祝辞を述べられました。続いて関係者によるテープカットが行われ、会津田島駅行きの第1便に乗客3名が乗り込み、午前9時20分に只見駅を出發しました。



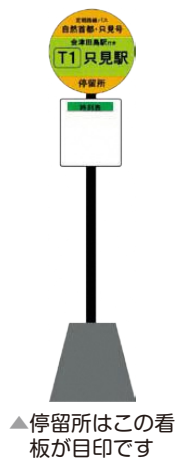
自然首都・只見号

予約不要の定期路線ワゴン

- **名称** 定期路線ワゴン 自然首都・只見号
- **運行内容** 1日2往復（午前・午後）の毎日運行（元旦のみ運休）
- **運行区間** 只見駅から会津田島駅までの23区間（時刻表参照）
- **利用料金** 町内の移動は一律200円、町内～県立南会津病院、会津田島駅（またはその逆）は1,500円となります。
※小・中学生は半額、幼児は無料

- **運行時刻（時刻表参照）**
 - ①只見駅⇒会津田島駅 9:20発-10:42着
 - ②会津田島駅⇒只見駅 11:15発-12:34着
 - ③只見駅⇒会津田島駅 13:10発-14:32着
 - ④会津田島駅⇒只見駅 15:25発-16:44着

- **運行車両** ジャンボタクシー（定員9名）
- **運行主体** 只見町商工会
- **運行事業者** (有)只見観光タクシー、朝日タクシー(有)



定期路線ワゴン
自然首都・只見号
【只見⇄会津田島駅】

バス停は会津田島駅を含む全23箇所

只見駅と会津田島駅を結ぶこの路線ワゴンは、只見町内と南会津町あわせて全23箇所の停留所を設けています。

町内では、只見地区3箇所、朝日地区12箇所、明和地区6箇所に設置しており、南会津町は県立南会津病院と会津田島駅の2箇所に設置してあります。

元旦以外毎日運行する路線ワゴンは、1日2往復します。10人乗りのジャンボタクシーで各停留所を巡りますが、最大乗車人数を超えた場合は、新たにタクシーを走走します。利用料金は、町内の移動であれば一律200円ですが、県立南会津病院と会津田島駅で乗降される場合は1,500円となります。

路線ワゴンを利用される場合は、到着予定時刻前に停留所付近でお待ちいただき、乗車の際に運転手に降りる場所をお伝えください。

時刻表

只見駅 → 会津田島駅				会津田島駅 → 只見駅			
停留所	バス便	101便	103便	停留所	バス便	102便	104便
T1-只見駅		9:20	13:10	TJ2-会津田島駅		11:15	15:25
T2-羽染美容室前		9:21	13:11	TJ1-県立南会津病院		11:20	15:30
T3-こみと屋前		9:22	13:12	M6-梁取集会所前		12:05	16:15
A1-櫛戸堂		9:26	13:16	M5-山里橋		12:07	16:17
A2-南栄通商前		9:28	13:18	M4-小林スノーステーション		12:08	16:18
A3-小川橋		9:29	13:19	M3-明和振興センター入口		12:09	16:19
A4-上福井住宅前		9:30	13:20	M2-坂田・布沢入口		12:10	16:20
A5-只見中学校入口		9:31	13:21	M1-会津只見考古館前		12:11	16:21
A6-朝日駐在所前		9:31	13:21	A12-季の郷湯ら里入口		12:14	16:24
A7-朝日診療所前		9:32	13:22	A11-亀岡多目的広場入口		12:15	16:25
A8-パチンコダイエー前		9:34	13:24	A10-熊倉集会所前		12:17	16:27
A9-ヒロタテクノ前		9:36	13:26	A9-ヒロタテクノ前		12:18	16:28
A10-熊倉集会所前		9:37	13:27	A8-パチンコダイエー前		12:20	16:30
A11-亀岡多目的広場入口		9:39	13:29	A7-朝日診療所前		12:22	16:32
A12-季の郷湯ら里入口		9:40	13:30	A6-朝日駐在所前		12:23	16:33
M1-会津只見考古館前		9:43	13:33	A5-只見中学校入口		12:23	16:33
M2-坂田・布沢入口		9:44	13:34	A4-上福井住宅前		12:24	16:34
M3-明和振興センター入口		9:45	13:35	A3-小川橋		12:25	16:35
M4-小林スノーステーション		9:46	13:36	A2-南栄通商前		12:26	16:36
M5-山里橋		9:47	13:37	A1-櫛戸堂		12:28	16:38
M6-梁取集会所前		9:49	13:39	T3-こみと屋前		12:32	16:42
TJ1-県立南会津病院		10:37	14:27	T2-羽染美容室前		12:33	16:43
TJ2-会津田島駅		10:42	14:32	T1-只見駅		12:34	16:44

注意事項

- 各停留所の到着予定時刻前に停留所付近でお待ちください。
- 乗車する際に運転手に降りる場所をお知らせください。
- 降りる際に利用料金をお支払いください。
- 雪んこタクシーのチケットは使用できません。



▲櫛戸堂の停留所

Interview



地域創生課 創生企画係
主任主査 三瓶 錬

充実した公共交通サービスに向けて

平成18年に新たな公共交通サービスとして運行を開始したデマンド型交通「只見雪んこタクシー」は、お陰様で高齢者を中心に多くの方にご利用をいただいております。高齢化や人口減少が進行する本町において、公共交通サービスの充実は今後ますます重要なものになってきており、今回、

只見駅から会津田島駅間の定期路線ワゴンの運行と雪んこタクシー、福祉乗合いいきバスの低料金化を実施しました。

今後も、地域の方をはじめ、どなたでも気軽に利用できるような公共交通サービスを提供できるように努めていきますので、ぜひご利用ください。

片道1回

200円

只見町デマンド交通



只見雪んこタクシー

**自宅から目的地まで送迎
只見雪んこタクシー**

デマンド交通とは、利用者の事前予約により指定の場所から場所への移動を低料金で提供するサービスのことです。交通網の整備が行き届かない地域の課題解決に期待されています。

只見町商工会では、自宅から目的地まで送迎するデマンド交通「只見雪んこタクシー」

のサービスを地元タクシー事業者とともに提供しています。多くの町民が朝日診療所や商店への買い物、温泉施設などへの移動手段として利用されています。

本年4月1日より「只見雪んこタクシー」の利用料金が、1回500円から200円（小・中学生100円、幼児は無料）に改定され、さらに利用しやすくなりました。

只見雪んこタクシー概要

- 運行日 月～金曜日
(土日祝日、盆期間、年末年始は運休)
- 予約 事前予約制 (利用したい便の30分前まで)
※下記予約センターに電話し「電話番号」「お名前」「利用希望の便」「乗車場所」「目的地」をお伝えください。
- 料金 片道1回200円
(小・中学生100円、幼児は無料)
- 運行範囲 只見町内 (一部運行不可エリア有)
- 運行時間 平日7:00～16:30まで
- 利用できない方 一人で乗降できない方 (介護者有可)、未就学児の一人乗車、車椅子利用者、酔酩者、ペット連れ
- 予約・お問合せ先 只見町商工会内「予約センター」Tel 0241-83-1000
(受付時間/平日7:00～16:00)



▲雪んこタクシーを運行する朝日タクシーの五十嵐葵さん(左)と只見タクシーの吉田好広さん(右)

雪んこタクシーのサービスを開始してから10年以上が経過しました。今では1日平均50人の利用があり、町民の足として定着しているものと感じております。
これからも関係者一同、利用しやすいサービスに努めていきたいと思っておりますので、どうぞご利用ください。

— Interview —



只見町商工会
経営指導員 渡部 憲司

片道1回

200円



只見町福祉交通

いきいきバス
区域乗合
福祉送迎 会津ただみ振興公社

福祉乗合いいきいきバス

車椅子のまま乗降可能 福祉乗合いいきいきバス

町では、車椅子を利用されている方を対象にした福祉交通「福祉乗合いいきいきバス」を運行しています。このサービスは、車椅子のまま乗車することが可能で、町内を運行範囲に、自宅から目的地まで送迎します。運行事業者は株式会社津ただみ振興公社で、運行時は運転手が可能な範囲で利

用者の乗降などをサポートします。車椅子利用者は、付き添いが必要で、ご家族などの同伴者は1名まで無料です。町内の福祉施設を利用される方々の送迎も行っているため、利用には事前予約が必要ですが、「只見雪んこタクシー」同様、4月1日より利用料金が1回500円から200円に改定され、さらに利用しやすくなりました。

福祉乗合いいきいきバス概要

- 運行日 月～金曜日（土日祝日は運休）
- 予約 事前予約制（前日の16：00まで）
※月曜日の予約は金曜日の16：00まで
- 料金 片道1回200円
（ご家族など付き添いの方の料金は無料）
- 運行範囲 只見町内
- 運行時間 平日9：00～16：00まで
- 利用対象者
車椅子利用者（付き添いの方の同伴が必要）
※同伴者1名のみ無料
- その他
送迎車は車椅子のまま乗降が可能で、付き添いの方の座席も近くにあります
- 予約・お問合せ先
株式会社 会津ただみ振興公社 Tel 0241-83-1733
（受付時間／平日9：00～16：00）



▲車椅子のまま乗降できる福祉乗合いいきいきバス

この「福祉乗合いいきいきバス」は、通院や買い物などに利用されることが多く、車椅子を利用される方の移動手段として支えています。これからも、町民の皆さまのお役に立てるよう「安全は最大のサービス」をモットーに運行いたします。どうぞ、お気軽にお問合せのうえ、ご利用ください。

— Interview —



株式会社 会津ただみ振興公社
島谷 裕彦

これが只見町の予算です

◆平成31年度只見町予算

平成31年度予算は、第七次只見町振興計画に示した町づくりの理念、基本的施策に基づき、地域の社会経済的な発展を目指し、各種事業へ取り組んでいくための編成となっております。

一般会計の予算規模は56億1,000万円となり、前年度対比3,200万円、0.6%の増となっております。また、各特別会計の合計額は26億3,370万円となっており、一般会計と合わせた平成31年度予算総額は82億4,370万円です。

◆一般会計 歳入

歳入は、「依存財源」(国や県から入るお金)が72.5%を占め、中でも地方交付税の割合が最も高く、歳入全体の42.6%を占めています。

また、「自主財源」(町が独自に確保できるお金)では、繰入金金が歳入全体の9.6%で、前年度に比べて4,760万円の減額となっております。町税は歳入全体の15.0%で、前年度に比べて860万円の減額となっております。

◆一般会計 歳出

歳出は、総務費の占める割合が最も高く14.9%となっております。主な事業は、地方創生推進交付金を活用した只見線観光路線化の取組み及び空き家利活用、移住定住促進などです。

次に、教育費が昨年比4.3ポイント増の14.4%となっております。小中学校の学習環境整備としてコンピュータなどの更新、国指定重要有形民俗文化財の民具取蔵施設の建設によるものです。

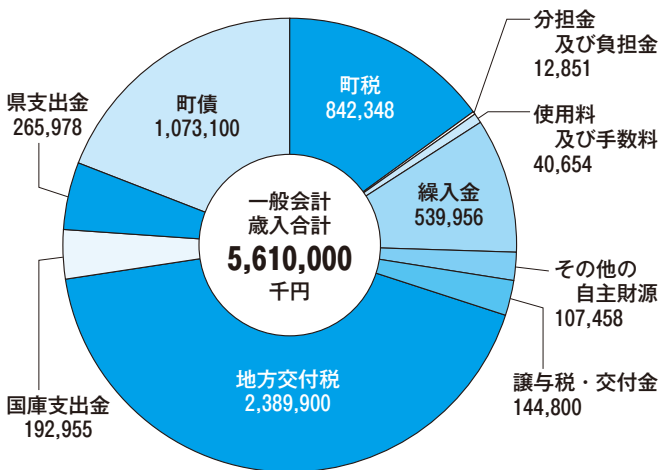
民生費は14.3%となっておりますが、主に後期高齢者医療、介護保険、児童福祉などの安定した社会生活を保障するための経費です。

続いて、土木費、消防費、公債費、農林水産業費、土工費、衛生費の順になっていきます。

土木費では、除雪機械の整備、町道改良工事、集会施設の整備などを実施し、消防費では、防災行政無線の改修を進め、現在のアナログ方式からデジタル方式へ移行する計画です。

農林水産業費では、担い手の育成、地域活動の支援、遊休農地等の解消などに取り組みます。

1,000万円



■町税の内訳

町民税	1億5,581万1千円
固定資産税	6億4,969万5千円
軽自動車税	1,325万6千円
町たばこ税	2,023万3千円
入湯税	335万3千円

町民一人あたりにすると(3月1日現在人口)	4,350人
■一般会計支出額(使われるお金の額)	1,289,655円
■町税負担額(納めていただくお金の額)	193,643円

■歳入

(単位：千円)

項目	31年度	構成比	30年度	増減率
町税	842,348	15.0%	850,945	-1.0%
地方譲与税	56,000	1.0%	60,000	-6.7%
利子割交付金	500	0.0%	500	0.0%
配当割交付金	800	0.0%	700	14.3%
株式等譲渡所得割交付金	800	0.0%	500	60.0%
地方消費税交付金	79,000	1.4%	76,000	3.9%
自動車取得税交付金	6,400	0.1%	12,000	-46.7%
地方特例交付金	700	0.0%	600	16.7%
地方交付税	2,389,900	42.6%	2,109,000	13.3%
交通安全対策特別交付金	600	0.0%	700	-14.3%
分担金及び負担金	12,851	0.2%	10,486	22.6%
使用料及び手数料	40,654	0.7%	37,537	8.3%
国庫支出金	192,955	3.5%	194,721	-0.9%
県支出金	265,978	4.8%	346,847	-23.3%
財産収入	19,502	0.4%	71,674	-72.8%
寄付金	11,001	0.2%	5,001	120.0%
繰入金	539,956	9.6%	587,556	-8.1%
繰越金	1	0.0%	1	0.0%
諸収入	76,954	1.4%	100,932	-23.8%
町債	1,073,100	19.1%	1,112,300	-3.5%
歳入合計	5,610,000	100.0%	5,578,000	0.6%

■歳出

(単位：千円)

項目	31年度	構成比	30年度	増減率
議会費	76,653	1.4%	77,751	-1.4%
総務費	838,483	14.9%	905,168	-7.4%
民生費	799,579	14.3%	789,134	1.3%
衛生費	319,892	5.7%	383,454	-16.6%
労働費	269	0.0%	2,557	-89.5%
農林水産業費	457,041	8.1%	528,257	-13.5%
商工費	364,387	6.5%	317,009	14.9%
土木費	770,449	13.7%	592,856	30.0%
消防費	556,819	9.9%	726,842	-23.4%
教育費	806,959	14.4%	562,833	43.4%
災害復旧費	100,701	1.8%	195,298	-48.4%
公債費	488,616	8.7%	467,337	4.6%
予備費	30,152	0.6%	29,504	2.2%
歳出合計	5,610,000	100.0%	5,578,000	0.6%

平成31年度の主な事業

■自然と共生するまちづくり

- 自然保護意識の醸成
1,526万円 ユネスコエコパーク推進事業
- 雪と共存するまちづくり
6,480万円 除雪機械更新事業
1,760万円 高齢者等除雪支援事業
850万円 克雪対策事業補助金
- 道路網の整備と定住環境の整備
16,488万円 道路新設改良事業
5,560万円 町営住宅長寿命化事業
- 水環境の保全と上下水道の整備
16,422万円 只見統合簡易水道整備事業

■文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり

- 将来の只見を担う子どもたちの教育の充実
8,710万円 ICT環境整備事業
2,295万円 奥会津・只見教育振興協力隊活用事業
1,073万円 学校給食費負担軽減事業
- 家庭教育力・地域教育力の向上
1,731万円 放課後子ども教室事業
- 地域文化の振興（地域で育まれた人の技・物・食の伝承）
17,035万円 民具収蔵庫整備事業
1,489万円 八十里越調査事業

■住民が主役のまちづくり

- 集落・振興センターでの住民交流を主体とした地域づくり
2,850万円 集舎施設整備事業
920万円 集落運営支援交付金
900万円 自然首都只見地域づくり交付金
- 新たな視点による地域づくり
926万円 移住定住促進事業
- 総合的な土地利用・公共交通体系の確立
2,324万円 新多目的交通システム運営補助事業
981万円 JR只見線全線再開通事業

■住みやすいまちづくり

- 健康でいきいきと暮らせるまちづくり
135万円 先駆的健康づくり事業
- 安心して子どもを産み育てられるまちづくり
1,501万円 子ども医療費無料化事業
360万円 子宝祝い金事業
309万円 健やか発育・発達支援事業
- 高齢者が健康でいきいきと暮らせるまちづくり
200万円 シルバー人材センター推進事業
- 安心して暮らせるまちづくり
14,472万円 防災行政無線デジタル化事業

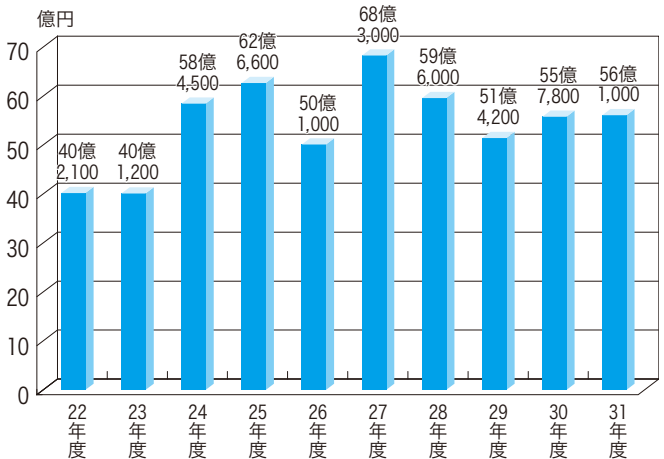
■働きがいのあるまちづくり

- 受け継ぎ託す、プライド農業の実践
1,165万円 農業経営体育成支援事業
1,000万円 稲作農家育成支援事業
667万円 担い手育成事業
- 豊かな森林を活かした林業の振興
892万円 町単林道舗装事業
200万円 地元産材活用支援事業
- 活力と賑わいそして持続ある商工業の確立
1,740万円 プレミアム商品券発行事業
- 地域経済の発展を担う魅力ある観光の推進
3,886万円 河井継之助記念館駐車場整備事業
2,637万円 只見線観光路線化モデル創出事業
1,130万円 「道の駅」整備事業

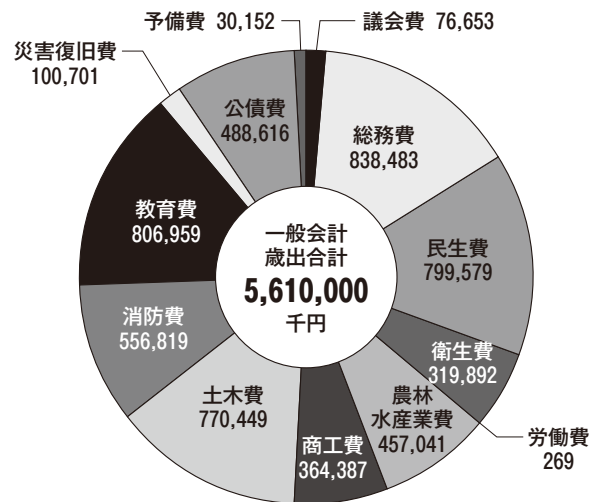
お金はどこから来て、どこへ行くの？

■一般会計当初予算額の推移

(単位：万円)



一般会計 予算総額 56億



■特別会計予算

(単位：千円)

会計区分	31年度	30年度	増減率
国民健康保険事業特別会計	518,000	514,000	0.8%
国民健康保険施設特別会計	391,000	466,000	-16.1%
後期高齢者医療特別会計	144,000	142,000	1.4%
介護保険事業特別会計	751,000	716,000	4.9%
介護老人保健施設特別会計	271,000	262,000	3.4%
地域包括支援センター特別会計	14,000	11,000	27.3%
簡易水道特別会計	271,000	250,000	8.4%
集落排水事業特別会計	260,000	295,000	-11.9%
朝日財産区特別会計	13,700	14,000	-2.1%
合計	2,633,700	2,670,000	-1.4%

第47回只見ふるさとの雪まつり

フォトコンテスト入賞作品決定!



大島 市郎さん
(会津若松市)

「雪中、
天領只見仙獄太鼓」



審査員
特別賞

「神聖な
雪・雪・雪!」
鈴木 励子さん
(会津若松市)



後藤 東吾さん
(福島市)

「出陣」



優秀賞

「緑結び色の
花が咲いた」
高橋 琢也さん
(宮城県)



中根 英治さん
(埼玉県)

「赤れんが
庁舎を彩る」

〈入選者〉

渡部 正夫さん(会津若松市)
高橋 順一さん(いわき市)
古関 喜典さん(福島市)
寺澤 達夫さん(新潟県)
涌井 礼子さん(福島市)

【応募総数/64点】

たくさんのご応募
ありがとうございました!



只見町公式キャラクター
プナリン



「親子でほっこり」

蒲生集落
活性化委員会

雪まつりを盛り上げた町内各地のミニ雪像

雪まつりミニ雪像コンテスト審査結果発表!



優秀賞

応募総数
35点

たくさんのご応募ありがとうございました!

「い(亥)～年にしよう」 只見郵便局



入賞

「かわいいお地藏様」
栗城 勝子さん (只見)



入賞

「大イノシシ」
塩沢観光協会



入賞

「がんばろう北海道」
只見駐在所連絡協議会



入賞

「ウリボウ」
只見ホーム

只見高校・卒業式



▲佐竹校長から卒業証書を受け取る菅家友香さん



▲感謝の答辞を述べる新國潤平さん



▲拍手の中退場する卒業生

3月1日、只見高校の卒業式が行われ、35名（内、山村教育留学生13名）が卒業しました。

卒業式では、佐竹正徳校長が卒業生代表の菅家友香さんに卒業証書を手渡し、菅家町長などが祝辞を贈りました。

在校生代表の伊藤彩加さん（2年）が「先輩たちの活躍を応援しています」と送辞を述べ、卒業生代表の新國潤平さんが「只見高校で過ごした日々を支えに、これから頑張っていきます」と答辞を述べました。

卒業生は在校生や保護者などの拍手の中、学び舎を後にしました。

只見の未来を担う子どもたち

学び舎を巣立つ

只見中学校・卒業式



▲感動に溢れた式歌「旅立ちの日に」を歌う卒業生30名

3月13日、只見中学校の卒業式が行われ、30名が思い出を胸に旅立ちました。

横山泰久校長が卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡し、「素直な気持ちを忘れず、自身を磨くための努力を一步ずつ続けてください」と式辞を述べ、卒業生代表の酒井香苗さんが「私たちは自然豊かなこの学び舎で過ごした思い出と誇りを胸に、新たな舞台へと進んでいきます」と感謝の答辞を述べました。



▲思い出と感謝を伝える酒井さんの答辞



▲横山校長から卒業証書を受け取る卒業生

明和小学校・卒業式



▲穴澤校長から卒業証書を受け取る酒井駿さん



▲別れを惜しみながら「6年分のありがとう」を歌う卒業生



▲家族に花を手渡し感謝を伝える卒業生

3月22日、町内各小学校の卒業式が行われ、只見小9名、朝日小16名、明和小17名の卒業生が学び舎を巣立ちました。明和小では、卒業生一人ひとりが穴澤正志校長から卒業証書を受け取り、「将来は医者を目指したい」「プロサッカー選手になりたい」などと将来の夢や中学校生活の抱負を発表しました。別れの言葉では、卒業生が仲間、家族、先生方に対する感謝の言葉「6年分のありがとう」を歌と言葉で伝えました。

卒業式と満了式

只見保育所・満了式



▲保護者の前で感謝の気持ちを伝える満了児



▲別れの言葉を伝える満了児3名

3月25日、町内各保育所で満了式が行われ、只見保育所3名、朝日保育所5名、明和保育所5名のさくら組園児が満了を迎えました。只見保育所では、保育証書を受けとった満了児がお父さんとお母さんのもとへ歩み寄り、



▲花束を手に退場する満了児



▲保育証書を受け取る満了児

り、「いつも遊んでくれてありがとう」などと感謝の気持ちを伝えました。満了式後には、たんぽぽ、ひまわり、さくら組による縄跳びや歌などの発表会が行われ、成長した姿を披露しました。



▲只見町プロジェクトと地域おこし協力隊の1年間の成果を発表した報告会



▲只見町プロジェクトの成果を発表した吉津瑞穂創生企画係長

第1部で行われた只見町プロジェクトの活動成果報告会では、始めに菅家町長が「当プロジェクトは、若手・中堅職員を中心に1年間議論を深め、職員から具体的な施策が提案された。施策は次年度の予算にも組み込まれており、今回町民の皆さまにもこの取り組みをご理解いただき、地域との連携をさらに深めていきたい」とあいさつしました。

プロジェクトメンバーが 活動成果を報告

町の最大の課題である人口減少の克服を目指し、昨年4月に只見町役場内の事業としてスタートした「只見町プロジェクト」と町内で活動する6名の地域おこし協力隊の活動成果報告会が3月19日、只見振興センターで開催され、町民など約40名が参加しました。

続いて、橋本副町長が当プロジェクトを始めた4つの意義として表1のとおり、役場組織の枠組みを超えた多角的な視点での検討、課題の共有、



▲約1年間、各部署から参加した職員

只見町の未来について考える 「只見町プロジェクト」 「地域おこし協力隊」 活動成果報告会

平成30年度 只見町プロジェクト 地域おこし協力隊 活動成果報告会



▲地域おこし協力隊の発表会に出席した左から渡部教育長、菅家町長、阿部利浩隊員、浜津航矢隊員、橋本拓馬隊員、山科麻伊隊員、藤沼航平隊員、渡辺史隊員、橋本副町長



▲3年の任期を終えた橋本隊員(左)と山科隊員(右)

【表1】只見町プロジェクトの目的 — 只見町の人口減少の克服 —

- ① 役場組織の縦割りを超えた庁内の横断的な枠組みの中での多角的な視点での検討
- ② 将来を背負う町の若手・中堅職員の人材育成
- ③ 町の課題の共有
- ④ 事業化に向けた検討

職員の人材育成、事業化に向けた検討について説明し、「当該プロジェクトはまだ途中経過であり、今後も継続していく必要があると考えます」と総括しました。

成果報告では、地域創生課創生企画係の吉津瑞穂係長が、只見町を取り巻く人口減少による課題やPTの取り組みについて詳しく説明しました。プロジェクトメンバーが「町の人口減少に対する意見」について、区長連絡協議会や婦人会、老人会、農商工観光団体などを対象にヒアリングを実施し、その結果やこれまでの議論を踏まえ、既存事業のブラッシュアップを図り、新規事業として除雪オペレーター確保支援、移住定住推進プラン、只見線観光路線化事業、戊辰遺産活用事業などに取組むことを紹介しました。

地域おこし協力隊6名が 活動成果報告発表

第2部では、町内の各分野で活躍される地域おこし協力隊6名による活動成果報告会

が行われました。

隊員1年目の教育振興協力隊・阿部利浩さんは教育委員会に在籍し、「高校の魅力化」活動をテーマに、全国の高校の取り組みなどを報告しました。教育振興協力隊で隊員1年目の浜津航矢さんと隊員2年目の渡辺史さんは「町の公営塾『心志塾』の講師として活動されており、塾での取り組みや課題について報告されました。隊員2年目の山村振興協力隊・藤沼航平さんは森林の分校ふざわで活動され、情報発信や地域資源の活用などについて報告しました。隊員3年目の観光振興協力隊・橋本拓馬さんは会津ただみ振興公社で活動され、キャンプ場での取り組みなどを報告しました。同じく隊員3年目の観光振興協力隊・山科麻伊さんは観光商工課に在籍し、「只見の観光を盛り上げる」をテーマに、インバウンド対策などの取り組みを報告しました。講評では、菅家町長が「6名の隊員全員が素晴らしい取り組みであった。今回あった提案は町の中でも検討していきたい」と述べました。

町内唯一の医療機関・朝日診療所の医療体制が縮小

町が平成31年度の医療体制縮小を報告

只見町唯一の医療機関である朝日診療所の看護師が不足し、4月から医療体制の縮小が避けられない状況となったことを受け、診療所を設置する町は3月15日発行の広報紙「おしらせばん」で、診療所医療体制の縮小について報告しました。

診療所の看護師数は3月現在で会津若松市の会津中央病院から派遣されている2名を含め14名体制でしたが、定年退職

などにより4月以降は2名減の12名体制となります。

町では平成30年度内に3回看護師を募集し、募集年齢の拡大など幅広く人材の確保などに努めました。応募者はありませんでした。

これらの状況から、「おしらせばん」での報告では本年4月以降から「入院患者受入数が19名から減少する見込みであること」「看取り対応ができない場合があること」「訪問看護体制の縮小が見込まれること」が挙げられ、一刻も早く医療体制を回復させるために、今後も看護師確保に向けて全力で取り組むことが伝えられました。

引き続き、町では看護師確保に向けて継続して募集する予定としており、町民の方々などに身近な方へのお声がけの協力を呼び掛けていきます。



▲歯科を除き医療体制の縮小が見込まれる朝日診療所

北海道東京事務所を訪問

雪まつりで募った災害見舞金を贈呈

3月26日、雪まつり実行委員会長の菅家町長が東京都内にある北海道東京事務所を訪れ、「第47回只見ふるさと雪まつり」で集めた災害見舞金157,020円を手渡しました。

これは、北海道胆振東部地震の復興応援をテーマに開催した今年の雪まつりで募ったもので、会場で集めた募金と北海道物産販売の売上金を贈呈しました。

菅家町長から同事務所の田中副所長に災害見舞金を手渡し、北海道庁日本庁舎「赤れんが庁舎」の大雪像を制作した復興応援企画などを報告しました。田中副所長は感謝の言葉を述べられました。



▲田中副所長(右)に災害見舞金を手渡す菅家町長(左)

課題解決と町民との絆を深めた2年間

橋本晃一副町長が退任

平成29年4月1日から只見町副町長に就任された橋本晃一氏が、3月31日をもって退任されました。橋本副町長は任期中、特に町の最大の課題である人口減少対策に取り組みました。この問題に立ち向かうために、役場組織の枠組みを超えた「只見町プロジェクトチーム」を立ち上げ、課題解決に向けた事業の検討と職員育成を進めてきました。同月19日には、その成果報告会も開催しました。

同月29日に行われた役場の離任式で橋本副町長は「多くの町民との絆が私の大きな財産。県庁に戻っても只見町を応援したい」と退任のあいさつをされました。



▲多くの職員に見送られる中、菅家町長(右)と握手を交わす橋本副町長(左)

3年間の感謝の気持ちを伝える
「山村教育留学生15期生」送別式



▲3年間只見町で学んだ第15期生の皆さん

2月28日、「只見町山村教育留学生第15期生」13名の送別式が只見振興センターで行われ、保護者や教育関係者などが出席しました。

送別式では、渡部教育長が「感謝の気持ちを忘れず努力してください」とあいさつし、菅家町長とNPO法人ゆいネット只見の新国守寮長が祝辞を述べました。その後、留学生一人ひとりが「只見は第二の故郷です」「将来は福祉関係で地域の役に立ちたい」「ど町への想いや将来の目標を発表し、卒業生代表の堀越創さんが「只見の方々に感謝し、目標に向かって頑張ります」と感謝の言葉を述べました。

只見町監査委員の辞令交付式
小川集落の栗木豊さんが就任



▲辞令書を手にする栗木さん(右)と菅家町長

3月1日、只見町監査委員の辞令交付式が役場で行われ、菅家町長が栗木豊さん(小川)に辞令を交付しました。

監査委員は、地方自治法で定める執行機関のひとつで、議会の同意を得て町長が選任。権限は町長から独立しており、独立した立場で職務を行います。「税金が無駄使いされていないか」「事業が効果的に行われているか」などを町民の方々に代わって監査し、その結果を関係機関に知らせる役割を担っています。栗木さんの任期は3月1日から4年間で、議会選出監査委員の目黒仁也議員と2名体制で活動されます。

心の病気への理解を深める
「こころのちを守る」講演会



▲若山所長の説明に耳を傾ける参加者の皆さん

3月9日、心の病気への理解を深める「こころのちを守る講演会」が季の郷湯ら里で開かれ、地域住民など約30名が参加しました。

朝日診療所の若山隆所長を講師に迎え、「あなたのストレスを軽くするために」認知行動療法にみる自分の心の支え方」をテーマに、国や県内の自殺の動向、ストレスとうつ病、行動活性化や思考チェンジなどの認知行動療法について説明されました。最後に心に余裕をつくることが重要と伝えられ、参加者は自分の心の支え方などを学びました。

只見字沖地内に竣工
只見町定住促進住宅・沖住宅



▲竣工した定住促進住宅・沖住宅

只見町の定住人口拡大を目的とした住宅「只見町定住促進住宅・沖住宅」が3月11日、只見字沖地内に竣工しました。これは、定住希望者が町内に定住する住宅を確保するまでの準備期間に一時的に入居できる住宅で、入居期間が設けられています。平成25年に竣工した「新町住宅」ともに今回で2棟目となります。住宅は鉄骨造2階建てで、1階部分は2台駐車可能な車庫(約37㎡)となっており、2階の居住部分は1LDK(約46㎡)の間取りとなっています。家賃は4万5千円(共益費、車庫費用込み)で、4世帯の入居が可能です。

地域住民の1年間の成果を発表

各振興センターで「地域の発表会」開催

文芸作品などの展示や体験コーナーなどを設けた「地域の発表会」が3地区の振興センターでそれぞれ開催されました。このイベントは、地域住民や各振興センターが1年間の活動の集大成として開催されているもので、会場内には保育所園児から大人までの力作が並びました。当日はどの会場も多くの方で賑わい、地域の魅力が発信され、住民相互の交流が深められました。



▲（3月3日開催／朝日のいいもの集めちゃった市）多くの来場者の前で昔ばなしを披露する只見町昔ばなしの会の皆さん



▲（3月10日開催／只見振興センターまつり）地域住民と一緒に餅つきを楽しむベトナムから（株）リードに来ている実習生



▲（3月10日開催／明和公民館まつり）耐震改修工事が完了した明和振興センターのステージで発表する地域住民の皆さん

雪上の亀岡ビーチバレーコートで熱戦が繰り広げられる

「TADAMIスノースポーツフェスティバル2019」開催

3月2～3日、NPO法人ただみコミュニティクラブが主催する「TADAMIスノースポーツフェスティバル2019」が亀岡多目的活性化広場内特設コートで開催され、雪上でのバレーボールやフットサルの試合などが行われました。県内外から約20チームが出場した同大会では、特別ゲストとしてバレーボール元全日本代表選手やビーチバレー日本代表選手、サッカー元なでしこジャパンの選手などアスリート6名と、動画配信サイト「YouTube」で活躍されるYouTuber・ジャングル大西さんを迎え、参加者と一緒にプレーしました。綱引きや宝拾いなどの雪上運動会も催され、子どもから大人まで雪上での競技を楽しんでいました。



▲井上謙選手、齋藤信治選手、田中姿子選手、佐野優子選手などのアスリートも参加した雪上バレーボール



▲内山環選手、海堀あゆみ選手のほかにYouTuber・ジャングル大西さんなどが参加した雪上フットサル

町内企業のメーデルリーフ社員2名が来庁

只見線の活用として3万3870円を寄付



農作物を使った6次化商品の企画・製造・販売を手掛ける合同会社メーデルリーフの三瓶彰治さん、原田郁子さんらが役場を訪れ、菅家町長にJR只見線の復旧、利活用として、3万3870円を寄付されました。これは、メーデルリーフが町産玄米を使って開発した「只見ポンせん（税込130円）」の売り上げの一部を寄付するもので、今年の10ヶ月間、町内外の売店で3387個を販売し、1個10円を寄付したものです。

寄付では、三瓶さんと原田さんが「只見線を応援するため、寄付システムを取り入れた土産品を考えた」と経緯を話され、菅家町長がお礼の言葉を述べました。



▲菅家町長(右)に目録を手渡す原田郁子さん(中)と三瓶彰治さん(左)

只見の魅力に触れる

「只見おもしろ学」自然・民俗文化編を開催



▲かんじき体験する参加者の皆さん

3月6日、只見の自然と民俗文化を学ぶ「只見おもしろ学」の講座が行われ、15名が参加しました。第1部では、館ノ川の渡部和子さんを講師に迎え、「冬の三石神社」をテーマに、かた雪わたりやかんじき体験をしながら散策しました。只見振興センターを会場に行われた第2・3部では、「くま撃ち」と郷土料理「ザクザク」について学びました。「くま撃ち」では、講師を務めた小川の渡部民夫さんが鉄砲の撃ち方や狩猟方法などを紹介し、「ザクザク」では、町の郷土料理を学んだ人材育成第8期生の坂田の飯塚孝子さんと目黒香都子さんがザクザクを調理し、全員で試食しました。参加者は、町の自然や伝統的な文化の魅力に触れていました。

手作り豆腐と郷土料理にチャレンジ!

町食生活改善推進委員会の研修会

2月28日、只見町食生活改善推進委員会の研修会が只見振興センターで開かれ、会員18名が参加しました。研修会では、五十嵐ユキエさん(塩ノ岐)を講師に迎え、「木綿豆腐」とその豆腐を使った「つと豆腐」づくりを行いました。始めに、水につけた大豆とにがりなどを使って本格的な「木綿豆腐」づくりを体験し、その豆腐を使った会津の郷土料理「つと豆腐」づくりに取り組みました。「つと豆腐」は、冠婚葬祭や正月などの料理として昔から食されており、豆腐を藁で包んで作るという特徴があります。自分たちの手で作った豆腐を試食した参加者からは「美味しくできた」という喜びの声が聞かれました。



▲食改の皆さんとともに型箱から「木綿豆腐」を取り出す講師の五十嵐さん

6次化商品の開発で通年雇用や農業の広がりを目指す

新国農園（只見）の多機能型新事務所完成！

南郷トマトや米などをつくる只見地区の(株)新国農園の新事務所が3月11日、沖地内に完成しました。この施設は、事務所機能のほか、加工施設や米の保冷库などが設けられており、加工施設では同社で生産した米を使って「米粉」商品をつくりまします。一次加工で作った米粉をパッケージして販売するほか、二次加工で米粉から「麺」「皮」などを作り販売する計画もあります。

同社取締役の新国真也さんと妻の美紀さんは「もともと蕎麦の製粉を受けており、子どものアレルギー対策がきっかけで米粉を作るようになりました。米粉づくりを行うことで、冬期間の従業員の仕事として通年雇用にも繋げたいと考えています。これから米粉の様々な可能性を試していきたい」と話しました。米粉は、町内で販売される予定で、学校給食の食材としての活用も目指していきます。



▲同月19日に検査が完了した新事務所の加工場に立つ新国真也さん(左)と妻の美紀さん(右)

町内の3小学校児童が参加

「第6回全国海洋教育サミット」で学習成果発表



▲未来の町づくりを提案した只見小児童の皆さん

グローバルな視点で只見と海の結びつきを学ぶ「海洋教育」を推進する只見小学校、朝日小学校、明和小学校の6年生は2月9日、東京大学の安田講堂で開かれた「全国海洋教育サミット」に参加し、学習の成果を発表しました。児童たちは、自然を生かした只見の未来の町づくりや自然を支える水の循環などをテーマに、山間部と海の繋がりなどこれまでの学習の成果をポスターにまとめ、全国の方々の前で発表しました。児童たちは海洋教育を通して、ふるさと只見の良さを再確認することができました。



▲只見の自然、文化の良さを発表した朝日小児童の皆さん



▲只見の自然や八十里越について発表した明和小児童の皆さん

只見町の民具の価値や重要性を再確認

「会津只見史談会歴史民俗講演会」開催

3月16日、会津只見史談会主催の歴史民俗講演会が朝日振興センターで開催され、町内外から36名が参加しました。元県立博物館専門学芸員で現只見町文化財調査委員の佐々木長生氏を講師に迎え、「只見の歴史と民俗を読む」をテーマに講話されました。会津藩が江戸時代にまとめた地誌「新編会津風土記」、衣・食・住や行事など社会集団の生活上の様々な仕方やしきたりなどをまとめた書籍「風俗帳」の視点で、実際の民具を照らし合わせながら具体的に説明されました。参加者は、只見町の民具の価値や重要性を再確認しました。



▲只見の民具の重要性を紹介した佐々木氏

只見町ブナセンター自然観察会

「只見の冬を体感しよう—深沢集落の余名沢のブナ林」



▲余名沢のブナ林で開催した自然観察会

3月10日、季の郷湯ら里付近の余名沢沿いにあるブナ二次林で自然観察会が開催され、約20名が参加しました。観察会では、かんじきやスノーシューなどを履いてブナ林を目指し、冬芽の観察を行いながらブナセンター職員が樹木の落葉期の自然観察の方法や雪が植物に与える影響、ブナなどについて解説しました。余名沢のブナ林は小規模ながらもブナの純林になっており、根曲りしながらもどっしりと立ち上がる様子などを確認しました。参加者は、例年より雪が少ない只見の冬を体験することができました。

只見町ブナセンター講座

「只見の自然を食べる—只見町の食文化の特徴」

3月21日、福島の食文化研究家である平出美穂子氏を講師にブナセンター講座が開催され、19名が参加しました。今回の講座では只見の自然食や食文化をテーマに、只見の年中行事などからみた自然食の特徴や越後（新潟）、下野（栃木）との関係について講話されました。講座の最後には、町の自然食を残す方法を考えるグループワークが行われ、給食での提供や料理教室の開催など若い世代が伝統食に触れる機会を増やすなどの意見が多く出されました。参加者は、只見の食文化の価値と継承していくことの重要性について理解を深めました。



▲活発な意見を出し合ったグループワーク

広報ただみ診療所

朝日診療所

医師

山内 健士朗



「退任の挨拶」

皆さんこんにちは。朝日診療所の山内健士朗です。今年の冬は暖冬で雪も少なくとても過ごしやすかったですね。今回は恐縮ながら私の退任の挨拶をさせていただきたく思います。

この4月から私は南相馬市に異動となり、3月いっぱい再び只見町を去ることとなりました。この只見町で計3年を過ごさせていただき、皆さまと関わることができて大変嬉しく思っております。至らない点もあったかと思いますが、温かく接していただいた皆さまに心より感謝いたします。

異動先は只見町から遠方になりますが、同じ県内にいるのでまた只見町に伺うこともあるかと思っております。

最後になりますが、皆さま、心身ともに気を付けてこれからも元気にお過ごしください。3年間お付き合いいただき、誠にありがとうございました。皆様のご多幸を心からお祈りしております。



地域おこし協力隊として

Vol.53

只見町観光振興協力隊

たくま
橋本 拓馬



「3年間ありがとうございました」

只見町の地域おこし協力隊となり、あっという間の3年間でした。広報ただみの原稿を書くのもこれが最後となりました。

何を書くか悩んでいるときに、「この3年間で町民の方々が私を知っているという人はどれぐらいいるのか?」と思いました。おそらく、只見町の人口の半分は知っていると思います。なぜ人口の半分が知っていると言えるのかと言うと、キャンプ場やスキー場を中心に活動していたので、多くの町民の方々と出会い、私を知ったという方が多いと思います。

特にキャンプ場では、新潟県三条市にあるアウトドアメーカー「(株)スノーピーク」と連携し、モニタリングキャンプのスタッフとして一緒に

活動しました。田子倉ダムでの水遊びやキャンプ場にある古民家を活かした食事体験などを実施し、アウトドアを通して只見の魅力に触れることができました。

3年間という短い期間でしたが、多くの方々にお世話になりました。沢山の町民の方々と出会ったことは私の宝物です。本当にありがとうございました。



町史

とっておきの話

297

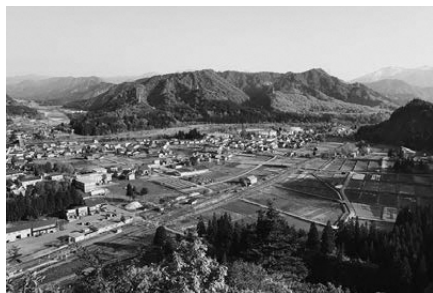
カエルとサンショウウオの楽園・ただみ⑥（最終回）

― 両生類が支える只見の自然 ―

国立科学博物館
分子生物多様性研究資料センター

よしかわ なつひこ
吉川 夏彦

只見町にはサンショウウオ・イモリの仲間（有尾類）が五種、カエルの仲間（無尾類）が九種の計一四種の両生類が生息しています。只見町は両生類の生息密度がとて高く、多くのカエルやサンショウウオを簡単に観察することができず。積雪が多いため雪解け水や地下水が豊富なで、沢や池、湿地などの自然な水場のほか、水田などの人工的な環境も含めて水環境が豊富です。ブナを中心とした広葉樹林に覆われた山の沢水は、夏でもかかれることは少なく水温も低いため、ハコネサンショウオの仲間やタゴガエルのような冷たく安定した溪流環境を好む種類が多く生息しています。山中に点在する湿地や雪解け水が溜まる池は、クロサンショウオやヤマアカガエルなどの止水環境を好む種が産卵に利用しています。人が手を加えて維持



▲河川・溪流・水田など、両生類のさまざまな生息環境がひしめく只見町（要害山から）



▲只見町周辺の固有種タダミハコネサンショウウオの幼生（只見町西部）

してきた里の水田や池は、トンサマガエルやニホンアマガエルなどの浅い水場を好む種類の生息場所となり、また山林に隣接していることからモリアオガエルのような山地性の種類の生息場所としても利用されています。両生類は生態系の食物連鎖の中では中位の捕食者としての位置を占めています。たとえばカエル類は主に昆虫などの小動物を食べる捕食者ですが、その一

方でカエルを餌にする生物も多くおり、より上位の捕食者であるヘビ類や小型・中型の哺乳類、鳥類の重要な餌ともなっています。溪流で見かけるカワガラスやカワネズミはサンショウウオ類も餌としていることが知られていますし、水田ではカエルを飲み込んだヘビや、餌をついばむサギ類をよく見かけます。多くの生物の餌ともなるカエルやサンショウウオが豊富であると

いうことは、それを養うだけの量の餌となる昆虫などの小動物、その餌となる植物などが存在することを表します。さらにはより大型の上位の捕食者を養っていく力がその生態系にはあるという事です。両生類の豊富さは、只見の自然の「底力」の強さを表す指標でもあるのです。県内の平野部では夏の夜でも驚くほど静かでカエルの声があまり聞こえない水田が広がる場所もありますが、町内では幸いそのような場所は見当たりません。水田のカエルの声が少し賑やかすぎることもあるかもしれませんが、それは只見の自然の豊かさの証でもあるのです。

只見町では普通にみられるこのような両生類は、いまは都市部や平野部では数を減らし、だんだんと見つけることが難しくなってきました。両生類はその名の通り、生きる上で水と陸の両方の環境が必要です。産卵や幼生期の成長を水場でおこない、変態後は陸上へ移動し、そして成熟すると再び産卵のために水場へ戻る、というサイクルを繰り返しています。そのため、ふだんの生息環境だけでなく水と陸の間を行き来できる環境のつながりも重要な要素です。最近水田の荒廃や乾燥化、ほ場整備、河川や池の護岸工事、道路の建設などによって全国的に生息環境が悪化し、人工構造物によって環境のつながりも断たれる傾向があります。町内では比較的良好な生息場所が多いのですが、それでも移動の際にコンクリート側溝や砂防堰堤、舗装道路などが障害になっている場合があります。雨の夜にカエルが路上に出て車に轢かれてしまふのはその一例です。

カエルやサンショウウオなどの両生類は少し地味な存在ではありませんが、これまでも地域の人々の営みとともに繁栄し、只見の生態系を支えてきた生物です。二〇一四年には地域の固有種であるタダミハコネサンショウウオが発見され、いまだに謎の多いグループではありますが、町の自然を理解する上では欠かせない存在です。只見の自然の豊かさの象徴の一つとして、これからも両生類のことを少しだけ気にかけてみてください。



町民文芸

只見短歌会

二月詠草

大塚栄一

指導

遠く住む娘は一言ころぶなと我に声かけ帰り行きたり

馬場 八智

古い母と床を並べて眠りある夜半の寢息に耳傾けぬ

新国由紀子

降雪の少なき今年の雪まつり祈願花火の輝やき映ゆる

関谷登美子

突風にござの折り山を越へまろぶ干したる種類大かた混じる

目黒 富子

浅雪で晴天続く雪まつり会場は数多の人で賑はふ

渡部ヨリ子

仕入れより帰り来し孫幼児に疲れ癒すか高く抱き上ぐ

新国 洋子

物の無き頃思ひつつ曾孫の満了式のスマホに見入る

渡部ゆき子

(出詠順)

只見俳句会

三月定例会

目黒十一

指導

息白し漬物の石定まらず
福寿草裏の堤はまだ白く

味代子

白地の帯吾に残して雪に逝く
美容院出れば風花髪に舞う

弘子

碑に彫らる志士の享年春疾風
彼岸入系図に一行書き加え

恒夫

降る雪や眼裏を占む天衣
沫雪にぽつと点りし街路かな

礼

塩蔵水に戻して彼岸膳
春の雪ソーラーパネル隠しけり

一穂

立春や差し込む陽ざし踏みおりし
窓明けて三月の空独り占め

修一

味噌汁に色を散らしてふきの薹
鈴懸の花手向けあり瞽女の墓

吉児

蝌蚪群れる轍の池の絶ゆるまで
湧き水に蝌蚪湧いて出て見等群れて

幸生

ふるさとの春まだ遠し友の声
イヌフグリ気にも止めずに急ぐ人

信



今月の お知らせ

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	☎82-5240
観光係 商工係	
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

人事

町職員の退職および 新規職員のお知らせ

●異動・退職（3月31日付）

町政に尽力された次の方々
が平成31年3月31日付で退職
されます。

《退職》

- ▽副町長 橋本 晃一
- ▽朝日診療所 医師 山内健士朗
- ▽農林建設課 副主幹 関谷 修一
- ▽朝日診療所 准看護師 目黒 真弓
- ▽明和振興センター
(再任用職員) 横田 雅則
- ▽教育委員会
(再任用職員) 山内 啓資

●新規職員（4月1日付）

次の方々を新たに迎え、平
成31年度がスタートします。

- ▽農林建設課 副課長(兼)建設係長 渡辺 浩
- ▽会計室 主任主査(兼)主任 三瓶さおり
- ▽町民生活課 主事 長谷部千晶
- ▽観光商工課 観光係(兼) 商工係 小林 克弥
- ▽地域創生課 広報広聴係 菊地 優花
- ▽町民生活課 税務係 目黒 誠也



試験

国家公務員「税務職員採用 試験(高卒程度)」のお知らせ

仙台国税局では、バイタリ
ティーあふれる税務職員を募
集するために、平成31年度国
家公務員「税務職員採用試験
(高校卒業程度)」を次のとお
り実施いたします。

●受験資格

- ①平成31年4月1日において、
高校卒業後3年を経過して
いない者および令和2年
(2020年)3月までに高
校を卒業する見込みの者
- ②人事院が①に掲げる者に準

ずると認める者

●受験申込受付期間

- 6月17日(月)から
- 6月26日(水)まで

●受験申込方法

- ▽受験申込みはインターネット
ト申込みとする。
- ▽国家公務員試験
採用情報NAVI
(<http://www.jinji.go.jp/>)
(<http://sayo/saiyo.htm>)

●第1次試験日

- 9月1日(日)

●問合せ先

- 仙台国税局 人事第二課
試験研修係
☎022-2263-1111

国家公務員「一般職試験 (高卒者試験)」のお知らせ

人事院では、国家公務員採
用一般職試験(高卒者試験)を

税 今月の納期

4月25日までに
納めましょう

- 固定資産税(1期)
- 農集排使用料(4月分)

実施いたします。申込みはイ
ンターネットにより行つてく
ださい。

●インターネット申込 受付期間

- 6月17日(月)から
- 6月26日(水)まで

●第1次試験日

- 9月1日(日)

なお、申込方法や受験資格
などの詳しい内容については、
人事院ホームページまたは左
記までお問い合わせください。

▽人事院ホームページ
(<http://www.jinji.go.jp/>)
(<http://sayo/saiyo.htm>)

●問合せ先

- 人事院東北事務局
第二課 試験係
☎022-2221-2022

開塾3年目の町の公営塾「心志塾」

— 平成30年度「心志塾」の1年間を振り返る —

地域おこし協力隊 教科学習担当 渡辺 史



平成29年2月にスタートした公営塾「心志塾」は、いよいよ3年目に突入します。心志塾では日々の教科指導や受験勉強の支援だけでなく、大学選択の相談など生徒一人ひとりに向き合い、各人に合ったサポートをすることを心がけています。「自立型学習」の形態を採用しておりますが、生徒の「わからない」にはスタッフが寄り添い、できるまで一緒に考え、理解してもらえるように取り組んでいます。また、受験生には推薦入試に向けた志望理由書や小論文の添削なども行っております。

今年度も多くの只見高校生が塾で学び、そして3年生は新たな目標に向けて、各自の進路へと歩いていきました。受験生が多く、細部まで行き届いたサポートができたかどうか反省する点は多々ありましたが、第一志望に合格した生徒が多く、微力ながら目標達成に向けたお手伝いできたのではないかと考えております。最後まで頑張ってくれた生徒たちには本当に感謝しています。

今年度、心志塾に通っていた生徒が合格した大学・進路は右記の通りです。

心志塾に興味がある方、通塾したい方は教育委員会 (Tel: 82-5320) まで気軽にお問合せください。



— 国立大学 —

- ・新潟大学 理学部
- ・新潟大学 創生学部
- ・山形大学 地域教育文化学部
- ・茨城大学 人文社会学部

— 私立大学 —

- ・成蹊大学 文学部
- ・文教大学 文学部
- ・神奈川大学 経済学部
- ・関東学院大学 経済学部
- ・白鷗大学 教育学部
- ・大東文化大学 文学部
- ・東北学院大学 法学部

— 公務員 —

- ・只見町役場

町長スケジュール (3月分)

- 1日 県立只見高等学校卒業証書授与式、ユネスコエコパーク推進協議会
- 3日 TADAMIスノースポーツフェスティバル開会式、朝日のいいもの集めちゃった市
- 4日 雪まつり実行委員会、ミニ雪像コンテスト審査会、フォトコンテスト審査会
- 5日 只見町議会3月会議 (~14日)
- 9日 歳時記の郷・奥会津シンポジウム(昭和村)
- 10日 只見振興センターまつり、明和公民館まつり
- 13日 只見中学校卒業証書授与式
- 15日 臨時庁議
- 18日 ユネスコエコパーク連絡調整会議、ブナセンター運営委員会、会津中央病院訪問

- 19日 只見町プロジェクト成果発表会及び地域おこし協力隊活動報告会
- 20日 雪まつりミニ雪像コンテスト表彰式、(株)季の郷湯らり取締役会、只見町土地改良区理事会・総会
- 22日 明和小学校卒業証書授与式
- 25日 県庁への要望活動(福島市)、南会津地方広域市町村圏組合管理者会、南会津地方広域市町村圏組合協議会臨時会(南会津町)
- 26日 農業農村整備優良地区コンクール表彰式(東京都)
- 27日 南会津地方広域圏組合教育委員会辞令伝達式、福島県JR只見線復興推進会議(福島市)
- 28日 山内医師離任式、小中学校教職員の離任に伴う挨拶
- 29日 町退職職員辞令交付式及び離任式
- 31日 黒谷圃場整備竣工祝賀会

町民の消息

(2月26日～3月25日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

川元 彩愛 (女/竜也・飛鳥) 蒲生
 吉津 茉優 (女/智之・裕美子) 長浜

■ご結婚おめでとうございます

小林 角田 誠♡河内美智子 只見

■おくやみ申し上げます

梁取	サダ江	93歳	小林
渡部	寿郎	93歳	小川
船木	ヤヨ工	93歳	長浜
小林	實	85歳	布沢
大竹	タイコ	90歳	熊倉
馬場	奎一	84歳	塩ノ岐
吉津	勝夫	74歳	只見
目黒	美砂子	62歳	只見
目黒	ミヤギ	101歳	塩ノ岐
菅家	定彦	81歳	布沢

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成31年 3月1日現在

人口	4,208 (-7)
男	2,068 (-1)
女	2,140 (-6)
世帯数	1,863 (+2)
高齢化率	46.00%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 6 転出 6 出生 1 死亡 8

あとがき

▽4月の人事異動により、今月号をもって広報ただみの編集から離れることになりました。3年間カメラ片手に町内の様々なイベントなどにお邪魔させていただきました。ありがとうございました。また、多くの方々から情報提供いただいたこと、広報の感想をいただいたこと本当に感謝しております。多くの皆さんの協力があつたおかげで広報ただみを毎月発行することができました。

▽これからも皆さんの協力をいただきながら広報ただみを発行していきたいと思しますので、新しい広報担当者にも変わらぬご協力をお願いいたします。

(三瓶)

生涯学習サポーター
浅野リサ

明和振興センター
図書室 ☎86-2111

おすすめ新着図書

★失敗図鑑 すごい人ほどダメだった!



大野正人/著(文響社)

すごい人ほどダメだった! 読めば勇気がわいてくる、新しい心の教科書!

多くの伝記では「英雄」「成功者」として紹介されている、いわゆる偉人たち。

でも、彼らは、ずっと成功し続けてきたわけではありません。今に名を残すすごい人も、たくさん失敗を

してきました。

だから、「失敗しないと人生損だよ!」くらいの気持ちでどんどん新しいことにチャレンジしてほしい。そのための「勇気の本」が本書です。

「最近新しいこと試してなくてつまらないな」と感じている大人の方にもオススメです。

★この世界で死ぬまでにしたいこと2000



TABIPPO/著(ライツ社)

あの国でできることって何?どんな場所があるの? 絶景、秘境、グルメ、非日常etc..

ページをめくるとこの世界の遊び方が2000個ズラリと並んでいます。

写真を見ながら想像を膨らませ、計画して、旅に出る。この本を手にとった瞬間から死ぬまでに、あなたはどれだけのことをこの世界で叶えられるのでしょうか。

一度きりの人生じゃ、絶対足りない。でもできるだけこの世界を楽しみ尽くしたい! そんなあなたのために、この本はつくられました。

一度きりの人生じゃ、絶対足りない。

でもできるだけこの世界を楽しみ尽くしたい! そんなあなたのために、この本はつくられました。

★明和振興センターではリクエストも随時受付していますので、ぜひご利用ください。

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

町民憲章

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

オクチョウジザクラ (学名: *Cerasus apetala var. pilosa*)

[バラ科 サクラ属]



▲ 要害山南尾根登山道入り口近くのオクチョウジザクラ

▲ 萼筒が丁子の形に似るオクチョウジザクラ

只見町内では、雪解けが終るとそれを待っていたかのように沢山の草木の花が咲き、殺風景だった野山を飾ります。オクチョウジザクラもその中の一つです。本州の太平洋側に分布するチョウジザクラの変種にあたり、只見町のような日本海側の多雪環境に生育しています。チョウジザクラの名前は花のつけ根の部分（萼筒）が長く、花弁が小さい様子が香辛料の丁子（クローブ）に、そして漢字の「丁」の字に似ていることが名前の由来になっています。樹高が3~6mと小振りで幹の下部から枝分かかれし傘を広げたような樹形をしています。只見では雪解け後の4月~5月頃から白みの強いピンク色の花を咲かせます。葉よりも先か、同時に花を咲かせます。花の形も特徴的ですが、葉もまるみをおびた重鋸歯を持つので他のサクラ類とは簡単に見分けることができます。

企画展

「只見の自然を食べる」

期 間：4月22日(月)まで

会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

「植物学者河野昭一の世界~その生涯と只見」

期 間：4月27日(土)~9月2日(月)

会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

自然観察会

「春の花観察会」

日 時：4月28日(日)12:30~15:00

観察地：蒲生カタクリ公園周辺

「新緑のブナ林観察会」

日 時：4月29日(月・祝)9:30~14:00

観察地：癒しの森

※詳しくはブナセンター HPをご覧ください。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください